

各種 IOS の歯肉縁下印象再現性についての検証

Verification of subgingival impression reproducibility of various IOS



池田 奈右 Daisuke Ikeda

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会関西東海支部

きたみち歯科（兵庫県姫路市）

近年 IOS の普及期初期であると考えられる。各社より様々な IOS が発売され開業歯科医師が実診療に使用する頻度が増加している現状である。IOS を使用するにあたり支台歯形成の基本は歯肉縁上マージンである。しかし実際は旧補綴物の再製作や歯肉縁下カリエス、または審美的理由により歯肉縁下にマージンを設定しなければならない状況が過半数であるとも言える。そこで各種 IOS を使用し歯肉縁下マージンの光学印象におけるマージン再現性を検証したので報告したい。本検証にあたり豚下顎骨大白歯にフルクラウンを歯肉縁下 0.5mm 程度で形成しシリコン連合印象と各種 IOS でスキャンを行い、3 SHAPE 社のマージンチェックソフトにてマージン再現性を検証した。